

プリマジェスト

「IOH」で保険業界のDXを後押し

紙帳票を簡単・効率的にスキャンニング

企業の業務オペレーションに関するハードウェア・ソフトウェアの開発や、BPOなど各種サービスを手掛ける㈱プリマジェスト（神奈川県川崎市、稲垣秀秋社長）は今春から、保険業界のDX（デジタルトランスフォーメーション）を後押しする業務用スキャナ「IOH（インタラクティブオーバーヘッドスキャナ）」の提供を開始した。高速スキャナや一般的なオーバーヘッドスキャナとは異なり、広範囲なスキャンエリアを持つ同製品は、複数枚の伝票、ホチキス止めされた書類など多種多様な紙帳票を簡単な操作で効率よくスキャンングし、まとめてデータ化する。同製品に、保険金・給付金の請求などで多種多様な書類を多く取り扱う保険各社からの注目が集まりそうだ。

IOHは、使い方に応じて、一般的な奥行き事務デスクに合わせた「デザインモデル」と、より広範囲のスキャンが可能な「標準フリーフレームモデル」の2種類がある。

操作性の高いIOHは、障がい者の雇用促進の一環として、事務業務を容易にするツールとして採用しており、安定かつ高品質なスキャンを実現していることから、例えば、印影が薄い書類でもクリアにスキャン可能。

操作性の高いIOHは、障がい者の雇用促進の一環として、事務業務を容易にするツールとして採用しており、安定かつ高品質なスキャンを実現していることから、例えば、印影が薄い書類でもクリアにスキャン可能。

複数枚、ホチキス止め書類をそのままデータ化

対象帳票はA8サイズとA2サイズとスキャンエリアが広く、最大で30枚の書類読み取りが可能。ホチキス止めされている複数ページの帳票や見開き製本されている帳票でも効率的にデータ化できる。加えて、室内照明の影響を軽減した光学

ての活用も想定されている。デスク右手に設置された大型タッチパネルで基本操作を行い、デスク

計になっている。操作性が高いことから、オペレーターの教育にもさほど時間がかからない。

IOHは拡張性も高い。オプションとしてスキャン枚数やページ順序のチェックの他、必要項目の記載有無などを自動点検する機能を加えることができる。また、標準



複数帳票を同時にデジタル化

化を図っているが、例えば、自動車保険の保険金請求には修理見積書や損害箇所を写した写真などもできる（カススタマイズには別途費用が発生する）。この他、スキャンした書類データの点検業務を遠隔対応することも可能で、モニターを通じて指示を出したりもできることから、さまざまなユースケースが考えられる。

保険各社では長年にわたって、ウェブ手続きやAI-OCR、RPAを活用した自動化などを通じて業務のペーパーレス化を図っているが、例えば、自動車保険の保険金請求には修理見積書や損害箇所を写した写真なども、また、医療保険の給付金請求には診断書や診療報酬明細書、領収証など、整備工場や医療機関

といった外部から取り付ける書類が多種多様で枚数も多く、それらをデータ化するには膨大な時間と人手を要することから、依然として紙を使っていた業務が残されている。こうした保険業界の状況を受け、プリマジェストでは4年ほど前に、保険会社のデジタル化をよ

途、同社のBPOセンターで、ホチキス止めされた帳票などのスキャン業務の生産性向上についてテストを実施したところ、事務点検、前捌

き、スキャン、画像確認、後捌きといった一連の事務行程のうち、事務点検、前捌き、スキャン、後捌きで時間短縮がみられ、現行のスキャナで24秒かかっていた1書類当たりの作業時間が約15秒短縮し、全体で62%の業務効率化を確認した。こうした検証結果を踏まえて今年2月末にIOHをリリースした。

現在、保険会社に幅広くアプローチしており、いくつかの会社で好評を得て具体的な協議に入っている。今後、プリマジェスト全体として2年間で100台程度、保険業界では数十台の受注を見込んでいるという。

同社では、「将来的に日本の労働人口が減少する一方、企業の事務作業はそれほど減少するわけではない」と、いかにその業務を自動化していくかが、DXの推進を標榜するプリマジェストの支援する方向性になる。当社にはスキャンングだけでなく、AI-OCRや自動査定などの技術、また、保険会社でのBPOで培った知見を蓄積しており、それらを組み合わせながらクライアントである保険会社の自動化率向上に貢献していきたいと考えている。今回リリースしたIOHがその一助になればと思う」として、今後の保険会社への普及に意欲を示している。



操作性の高い業務用スキャナ

簡易事務点検・SDK提供など拡張性も特長